論文の内容の要旨

論文題目　ネットワーク分析によるナショナル・イノベーション・システムの研究

氏　　名　　橋本　正洋

1990年代以降の日本の産業において３つの構造変化、すなわち①技術と産業の構造変化、②産業と企業のサービス化、③産業・技術構造の進化とイノベーションを挙げることができる。

本論文は、日本がこの構造変化に政策的に対応できていなかったことを指摘し、イノベーション構造改革型の産業政策の必要性を論じている。さらに、こうしたイノベーション政策の検討の方法論として、爆発的に増大しているイノベーション学の知の集積を俯瞰する必要性を指摘し、最新のネットワーク分析の手法を用いて、イノベーション学に関する学術研究の俯瞰的理解を提示している。その結果、日米とも、その構造的改革は、イノベーションにかかる知が集積し、それから一定のタイムラグを置いてそれを活用した政策が実行され、高度化、包括化してきたことが、明らかになっている。

具体的には、イノベーションについて、主要な学術研究の３分野を抽出し、イノベーションの三層構造を明示している。第一に、イノベーション創成の環境基盤としての地域、産学の関係、知的財産権が重要であり、これらをもとに経済成長の起動力としてイノベーションが位置づけられていること。第二に、技術革新がイノベーションの中核であり、その昂進のためには、産業における技術の位置づけの差違の認識、知識のマネジメント及び製品開発が重要であり、そのためには、企業内外とのネットワークの構築がそれぞれの要素に大きく影響することとして捉えられていること。第三に、イノベーションマネジメントにおいては、組織のあり方、マーケット指向、組織内個人の創造性とリーダーシップの３点が重要な課題であり、それらを遂行していくためには、組織内のコミュニケーションの確保と実行力が必要であるということを明らかにしている。

一方、イノベーションの学術俯瞰からその重要性が明確になった大学の機能について、地域産業クラスターの分析を通じて、大学はその「るつぼ＝Melting Pot 機能」により、先端技術クラスターの強力なハブ機能を果たし、イノベーションの推進に寄与でき得ることを示す。

これらの分析を踏まえ、今後のナショナル・イノベーション・システム構築のための政策形成プロセスとしては、イノベーションの三層構造を念頭に置いて、爆発する学術の知識を俯瞰し、産業の現状を特許動向等により把握することで、的確な産業の方向性の理解を進めることが重要であることを指摘する。さらに、政策の推進体制に

関しては、産業の方向性の理解を基礎に、強い意志（will）をもって、この政策を企画･実行する政策人材の育成が重要であることを指摘する。また、現在起こっている産業構造の変化に柔軟かつ機動的に対応できるイノベーション政策インフラとイノベーション政策人材の整備が重要であり、このための基盤として「イノベーション学」の確立とこれに対応した大学カリキュラムの改革が不可欠であることを提言する。